

開講科目名 / Course	行動療法論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2,3,4	
主担当教員 / Main Instructor	秋本 慶子	
担当教員名 / Instructor	秋本 慶子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	人の行動が変容する理論の理解を通じて、自己および他者の行動変容について体験的な理解を深めることを目的とする。最初に行動変容に関して理論的な解説と実例を挙げながら概要を説明する。中盤以降は、具体例や受講者自身のちょっとした行動を対象に、各回で取り扱うキーワードを用いて、受講者自身が分析・解説を試行する。最終的には、行動変容が起る環境について言及し、自信や他者の行動を、行動療法の観点から整理し、行動が維持される仕組みについて自らの言葉で説明できるようにすることを目標とする。	
到達目標	1. 行動変容の基礎理論について説明できる。 2. 行動を状況や環境から分析することができる。 3. 行動変容を促進する具体的な方法を提案できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 行動変容の基礎：行動療法の対象、学習心理学 02. 技術を記述する（観察）：ABC分析 03. 行動と結果の関係（法則）：行動随伴性 04. 好子と嫌子 05. 行動の維持と回避行動 06. 行動変容の難しさ：嫌子と消去 07. 行動を支える条件：環境 08. 即時的な行動変容と行動の維持：外的統制と自己調整	
その他の授業の工夫	・学習の構えを促進するために、毎時「めあて」を提示する。 ・話し合い活動や発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。 ・小テスト、事後小レポートで、理解を深める。	
時間外学修	事前学修：適宜、次回の学習内容に関する事前小レポートを課す（7h）。 事後学修：適宜、講義内容に関する事後小レポート、コメントを課す（15h）。	
評価方法と評価割合	数回の課題レポートまたは小テスト（70%）と受講態度（発言の積極性、コメント、質問、グループワークへの貢献度等：30%）により行う。	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書	行動分析入門（第2版）（産業図書）	
履修する上で必要な要件		
その他	聞いて覚える講義ではなく、実際に考えて、作業して、実践してもらおう部分が多くありますので、それを理解した上で履修して下さい。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		